



もっと知りたい方へ

国立女性教育会館が提供するデータベース



「女性情報ナビゲーション」
<https://winet.nwec.go.jp/navi>

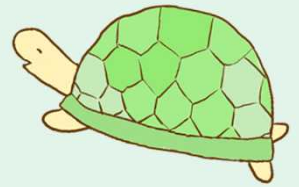
しごと・労働相談、心とからだの健康、子育て支援など、役立つ情報サイトをまとめています



「女性関連施設データベース」
<https://winet.nwec.go.jp/sisetu/>


全国の女性センター・男女共同参画センターの施設概要、実施している事業について検索することができます

相談事業の詳細から検索することもできます



「女性情報レファレンス事例集」
<https://winet.nwec.go.jp/reference>


女性関連施設でよくある情報相談(レファレンス)を、Q&Aの形式でまとめた事例集



女性の貧困

～コロナ禍の中で～

女性教育情報センターテーマ展示 (1～3月)



【URL】 <https://www.nwec.jp/event/center/poverty.html>



編集・発行: 独立行政法人国立女性教育会館 情報課
 〒355-0292
 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728
 TEL:0493-62-6195
 URL:<https://www.nwec.jp/facility/center.html>



発行: 2022年1月

まず
本、あり❑。

-?を!に変える本との出会いを見つけるマガジン-
///Vol.25///

女性の貧困

～コロナ禍の中で～





新型コロナウイルス感染症は、人々の生命や生活に大きな影響を及ぼし、とりわけ女性への影響が深刻です。
 経済的な影響を見ると、女性の就業が多いサービス業等が強く影響を受けたことから、「女性不況」と呼ばれることもあります。

(参考)内閣府男女共同参画局編「令和3年版 男女共同参画白書」2021

働く女性の半数以上が非正規雇用で、女性は男性に比べて賃金が低く、貧困に直面しやすいことが現状です。

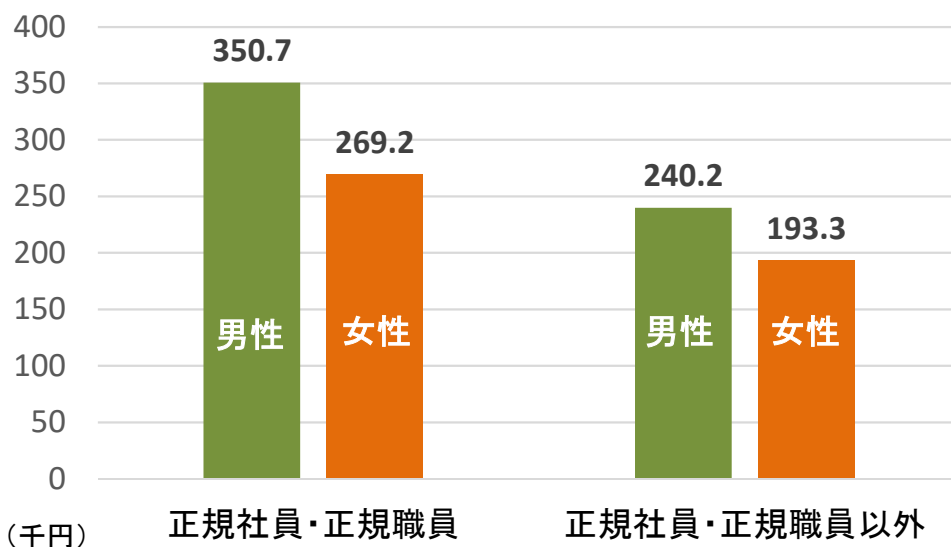


雇用者(職員・従業員)の男女比



(参考)総務省 労働力調査(基本集計) 2020年平均結果

雇用形態別平均賃金



一般労働者*の賃金

男性 338.0(千円)

女性 251.0(千円)

男女間賃金格差**は、

74.3%



*「短時間労働者」以外の者

**男性の賃金水準(男性=100)に対する女性の賃金水準の割合を表したもの

(参考)厚生労働省「令和2年賃金構造基本統計調査 結果の概況」2021

女性・ジェンダー関連情報を調べるのに最適！



国立女性教育会館 文献情報データベース

https://winet2.nwec.go.jp/bunken/opac_search



文献情報データベースでできること

- ①女性教育情報センターの豊富な所蔵資料が検索できます
図書・地方行政資料14万冊、雑誌4千タイトル、
新聞記事54万件、和雑誌記事7万6千件
- ②資料には、登録時に関連キーワードが付与されているため、
幅広い、効率的な検索ができます

新着資料アラートサービス

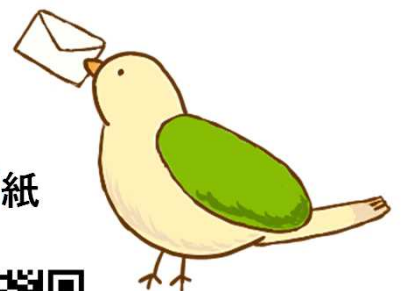
関心のある「キーワード」や「著者」などをあらかじめ登録すると、
その条件にあった女性教育情報センターの新着資料をEメールでお知らせ！

最新情報を受け取るには、新聞記事を登録するのが
オススメです！

新聞記事は全国紙・地方紙（北海道～沖縄県）合わせて**50紙**

【詳細はこちらから】

<https://www.nwec.jp/database/new.html>



❄️ 生理の貧困

経済的な理由などで、生理用品を手に入れられないことを「生理の貧困」と呼びます。長年見過ごされていた貧困の一つでしたが、少しずつ課題の認識や支援が広がってきています。



『#生理の貧困：#PeriodPoverty』

#みんなの生理 日本看護協会出版会 2021



「生理の貧困」を経済的な視点だけでなく、社会学・医学・教育・メディアなど様々なテーマから分かりやすくまとめたブックレットです。歴史や現状を知り、「生理の貧困」対策を今後どのように行っていくのかを考えるきっかけとなる一冊です。

● 本書で挙げられている生理の貧困例

物質的な生理の貧困例

・経済的理由 ・親のネグレクト ・父子家庭で父親に生理の知識がない

非物質的な生理の貧困例

・「当事者、または周囲に生理に関する知識が足りないこと、生理は恥ずべきものといった偏見があることから、当事者が生理用品についての不足を訴えることができなかつたり、苦痛をわかってもらえなかつたりする」(p.39)

📰 新聞記事例

『「生理の貧困」支援広がる：学校や商業施設 無償提供：コロナ契機「一過性」危惧』

樋口絢香 読売新聞 2021.11.26

『生理の貧困対策、学校で 全都立高、トイレに常備 企業・役所も無償配布』

日本経済新聞 2021.11.08

『「生理の貧困」コロナ禍で拡大：「ナプキン1日1枚 ティッシュで代用」：男性の理解乏しく：国、自治体が支援に乗り出す』

田中良治 西日本新聞 2021.07.09

🖥️ 内閣府男女共同参画局「生理の貧困」



<https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/kenko/periodpoverty/index.html>
「生理の貧困」について、国や地方公共団体による取組を紹介しています

『令和3年版 男女共同参画白書』 内閣府男女共同参画局編 勝美印刷 2021



日本の男女共同参画社会の現状に関する年次報告書です。令和3年版の特集は「コロナ下で顕在化した男女共同参画の課題と未来」。政府等の調査から見える就業面・生活面での変化の概観、新型コロナに対する政府の取り組み、ジェンダーの視点から「新しい働き方」や「新しい暮らし方」について分析されています。



内閣府男女共同参画局HPでPDFが公開されています

https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/index.html

関連情報 内閣府男女共同参画局「女性応援ポータルサイト新型コロナウイルス関連」
<https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/ouen/virus/>
コロナ下でお困りの方々への情報がまとめられています

『コロナ禍とジェンダー平等への課題(女性白書2021)』 日本婦人団体連合会編 ほるぷ出版 2021



「コロナ禍とジェンダー平等への課題」をテーマに、日本の政治・経済・社会の問題点、国内外の動向、女性の現状と要求などについて書かれています。コロナ禍で深刻化したジェンダー問題について幅広く知ることができる一冊です。巻末には統計データや年表などの資料も掲載されています。

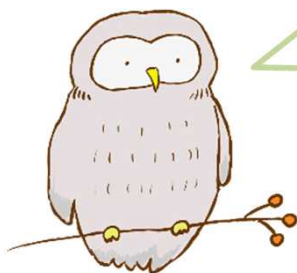
『ルポコロナ禍で追いつめられる女性たち：深まる孤立と貧困』 飯島裕子 光文社 2021



コロナ禍で女性が直面した厳しい現状が、統計データや当事者への取材から具体的に書かれています。「シングルマザーを全方位から襲う困難」、「ステイホームできない女性たち」、「エッセンシャルワーカーの苦境」、「高齢おひとりさま女性の貧困」など、困難が集中した女性の実態がわかる一冊です。

❄️ 女性自殺者の増加

2020年、全国の自殺者数が11年ぶりに増加。男性は11年連続で減少しているのに対し、女性は前年より15.4%増加しました。



中でも働く女性(被雇用者・勤め人)の自殺者が増加しています。女性の自殺の原因・動機では「勤務問題」が増加していることから、コロナ禍での労働環境の変化との関連が示唆されています。

(参考)厚生労働省「令和3年版 自殺対策白書」2021

『非正規差別と働く女性たち (POSSE vol.47)』

POSSE 2021



コロナ禍でも、小売りや医療、福祉などの分野で多くの女性労働者がエッセンシャルワーカーとして働く一方で、非正規労働者は雇い止め、休業補償なしといった厳しい状況にも直面しました。

非正規女性労働者の現状や困難、労働組合の取り組みなど、コロナ禍での女性労働問題について書かれています。

* 本書を発行しているNPO法人POSSEでは、電話・メールによる労働相談・生活相談を無料で受け付けています。

『「死にたい」に現場で向き合う 自殺予防の最前線』

松本俊彦編 日本評論社 2021



行政、病院、NPO法人など様々な自殺予防支援現場での対応や課題が紹介されています。“いつ「死にたい」気持ちを尋ねればよいのか”、“私の力だけで「救う」ことはできないと伝える”など、模索しながら対応する現場のリアルな声が収められています。

👉 悩みを抱えている方へ

- 厚生労働省「自殺対策 相談先一覧」



https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/soudan_info.html

電話・SNS・メールなどの
相談先がまとめられています



どこに相談したらいいかわからないときには、悩みの内容からも探すことができます。



シングルマザーの貧困

日本は先進国の中でも貧困率が高く、ひとり親世帯の相対的貧困率*は48.3%です

* 2018年の貧困線127万円に満たない世帯員の割合(参考)厚生労働省「国民生活基礎調査」2019



ひとり親世帯は、コロナ禍でのステイホームによるケア役割負担が増える、仕事と子育ての両立が難しいなど、さらに厳しい状況となっています。

ひとり親世帯のなかにもある男女差

	母子世帯	父子世帯
世帯数	123.2万世帯	18.7万世帯
平均年間収入 (母又は父自身)	243万円	420万円

ひとり親世帯の86.8%を占める
母子世帯は収入が少ない



(参考)厚生労働省「全国ひとり親世帯等調査(平成28年度)」2017

シングルマザー調査プロジェクト

https://note.com/single_mama_pj

シングルマザー支援に取り組むしんぐるまざあず・ふぉーらむ、ジェンダー政策の専門家、研究者らによって行われた課題別調査の全文PDFを公開

◆資料例

『コロナ禍におけるひとり親世帯の子どもの状況』 2021

『シングルマザーの居住貧困:コロナ禍の「ステイホーム」の現実』2021

『新型コロナウイルス深刻化する母子世帯の暮らし:1800人の実態調査・集計表(確報)』2020

『シングルマザーの貧困はなぜ解消されないのか:「働いても貧困」の現実と支援の課題』

中園桐代著 勁草書房 2021



日本のシングルマザーの就業率は8割以上と非常に高いにも関わらず、貧困率が高いという「働いても貧困」の現状があります。本書では、当事者へのアンケートや面接調査から、シングルマザーの労働やキャリアの実態、就業支援策の課題などを明らかにしています。

👉 もっと知りたい方へ

- 厚生労働省「子ども・子育て支援 母子家庭等関係」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-katei/index.html



- 子育てシングルの応援サイト IiYO(イーヨ)[NPO法人 しんぐるまざあず・ふぉーらむ]

<https://s-iiyo.com>

特集「ひとり親家庭のための新型コロナ関連情報」に、お金のこと、仕事のこと、受けられる手当など参考になる情報を掲載